

2018 広島市立大学の 地域貢献事業発表会

[日 時] 平成 30 年 (2018 年) 11 月 28 日 (水) 12:00~15:00

[会 場] 広島市役所本庁舎 2階 講堂

事例発表 (13:00-14:00)

1 主催者挨拶

公立大学法人広島市立大学 理事長・学長 青木 信之

2 事例発表

(1) 広島市立大学でできること

～AI(人工知能)とビッグデータの活用術～

社会連携センター長 竹澤 寿幸(情報科学研究科教授)

(2) 地域とデザイン

芸術学部 教授 及川 久男

パネル展示等(12:00-15:00)

各学部・研究科等によるパネル展示、プレゼンテーション

① 広島市との連携事業紹介

No.	市関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 01	企画総務局	広島広域都市圏 P R キャラクター「広島広 域都市犬“はっしー”」 のデザイン調整	広島広域都市圏協議会からの依頼を受け、過去に 同協議会の研修生が考案した「広域都市犬“はっ しー”」のデザイン調整とそのデザインを基に 様々なポーズを制作しました。	芸術学部 デザイン工芸学科 講師 中村 圭
市 02		広島市職員を対象に した英語力養成 e ラ ーニング講座の実施	本学が開発した英語 e ラーニングプログラムを活 用し、外国人来広者のアテンドに必要な英語力の 養成を目的とした、市職員対象の「英語力養成 e ラ ーニング講座」を実施しました。	国際学部 教授 青木 信之 教授 渡辺 智恵
市 03		広島広域都市圏鳥瞰 図の作成	広島広域都市圏の広報や構想実現に向けた施策展 開のための検討資料等として、広島広域都市圏全 体を俯瞰する鳥瞰図を制作しました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 笠原 浩
市 04	市民局	市民の英語力向上の ための研究と実践	1998 年に開発を開始した「ネットワーク型集中英 語学習プログラム」は、広く広島市民にも開放さ れ、市民の英語力向上に貢献しています。同プロ グラムを利用して 2002 年より実施している「イン テンシブ英語学習プログラム」、「社会人の学び直 し英語 e ラーニング講座」、「市大英語 e ラーニ ング講座」の実施概要や成果を紹介します。	国際学部 教授 青木 信之 教授 渡辺 智恵
市 05	都市整備局 (安佐動物公園)	広島市安佐動物公園 沿線の景観向上計画	広島市安佐動物公園と広島市立大学二者協働で、 「安佐動物公園沿線の景観向上計画」を計画。来園 者の多くが使用する、アストラムライン上安駅付 近「動物公園入口」交差点から動物公園までの約 2.8km の県道 268 号線上に、5 枚連作の誘導案内 板を設置しました。 広島市立大学では到着までの「ワクワク感」、「ドキ ドキ感」を誘発するデザイン案提供の協力を行い、 安佐動物公園のイメージ向上を目指すと同時に、 案内板により観光 PR や明るい景観への進展を通 して、社会への貢献を図っています。 広島市立大学芸術学部内にてコンペティション形 式で募集を行い、芸術学研究科総合造形芸術専攻 (日本画専攻) 菅原有加のデザインが採用され、 2016 年 3 月に設置を行い、完成しました。	芸術学部 美術学科 油絵専攻 助教 湯浅 ひろみ

No.	市関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 06	都市整備局	あさみなみ芸術化構 想—西風新都中央線 沿道作品設置事業—	平成 18 年度から進めている「あさみなみ芸術化構 想」の一環として、地域住民（大塚上町内会、大塚・ 伴南学区社会福祉協議会）及び広島市都市整備局 西風新都整備部と連携し、大塚シンボル通り（西風 新都中央線）沿道に彫刻作品を展示し、地域の芸術 化推進と若い芸術家の育成に努めています。	芸術学部 美術学科 教授 前川 義春
市 07	経済観光局	広島市における観光 消費の経済効果	広島市における観光消費が関連産業への生産波及 効果を通じて、生産や雇用、税収にどのような影 響を与えているのか等について、産業連関分析の 手法を利用して分析し、これからの観光振興の方 向性について考察した。分析に当たっては、広島 市立大学 COC+観光関連データベースを活用し た。	社会連携センター COC+ 特任准教授 吉岡 研一
市 08	道路交通局	猿候橋復元のための モデリングデータの 作成及びデザイン監 修	広島駅の南側、猿猴川に架かる猿猴橋は大正 1 5 年に華麗な姿に架け替えられました。その後、戦 時下に装飾の金属を供出、被爆に耐えたこの橋を 平成 2 7 年広島市被爆 7 0 周年記念事業の一つと して、往時の華麗な姿に復元が行われました。 この復元事業で、広島市からの受託研究として、 鑄造および石の加工に関わるモデリングデータの 作成とデザイン監修を行いました。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 吉田 幸弘
市 09	中区役所	基町プロジェクト	「基町プロジェクト」は、平成 25 年に策定された 「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町ア ートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目 指し、若者が主体となった創造的な文化芸術活動 や地域交流を行ない、今年 5 年目を迎えました。 展示ではその取組についてご紹介します。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 南 昌伸 教授 吉田 幸弘 講師 中村 圭 講師 藤江 竜太郎 非常勤特任教員 土井 満治 非常勤特任教員 増田 純 非常勤特任教員 片島 蘭 デザイン工芸学科 非常勤助教 鹿田 義彦 社会連携センター 特任助教 三上 賢治

No.	市関連部局	事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
市 10	教育委員会・ 広島市こども文化科学館	ひろしまコンピュータサイエンス塾	平成 21 年度より小学生とその保護者を対象にした「ひろしまコンピュータサイエンス塾(愛称:CS塾)」を開講しています。体験を通じて、数学や理科をはじめ様々な学問分野が結びついて構成されている「情報科学」に馴染んでもらう取り組みです。また、中高生を対象に「短期プログラミング講座」を開講しています。	情報科学研究科 ひろしまコンピュータサイエンス塾実行委員会 (★印: 実行委員長) (☆印: 実行副委員長) (◎印: 代表) ★准教授 古川 亮 准教授 中野 靖久 講師 岡本 勝 講師 香田 次郎 ☆講師 中山 仁史 ◎助教 厚海 慶太 助教 岩垣 剛 助教 窪田 昌史 助教 佐藤 康臣
市 11	全市関係局	シンボルマーク及び 公共デザイン制作	芸術学部では各種イベント等のロゴやマスコットキャラクターのデザインの制作や公共デザインへの協力を行っています。	芸術学部 デザイン工芸学科 教授 及川 久男 講師 中村 圭
市 12		広島市等の審議会委員等の就任状況	平成 29 年度の本学教員の審議会委員等への就任状況を紹介します。(平成 29 年度に任期が含まれたもの)	全学部

国際学部・研究科
 情報科学部・研究科
 芸術学部・研究科
 広島平和研究所
 社会連携センター他

②地域貢献・市民対象事業紹介

No.	テーマ・事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
地域 01	シャツ型ウェアラブル端末を活用した高齢者見守りシステム	本プロジェクト(Sanpo yoshi Project : 三方よし) は、これからより高齢化が加速する社会において、介護する人、介護される人、それを支える社会にとって、三方によい「高齢者見守りシステム」をミツフジ株式会社(東京都)と共同研究しながら、より精度の高いものにするを目的としています。	国際学部 教授 山口 光明
地域 02	監視カメラ映像の深層学習による土砂災害の前兆現象の検知	広島市の土砂災害の発生現場に、自立式の監視カメラを設置し、地域住民がインターネットで監視できるようにしています。土砂災害の前兆現象として、「川の水が濁る」、「川の水位が下がる」等が知られています。本研究では、これらの前兆現象の検知を目的とし、監視カメラ映像の深層学習を用いる手法を提案します。	情報工学専攻 モニタリングネットワーク研究室 教授 西 正博 システム工学専攻 組込みデザイン研究室 准教授 島 和之
地域 03	アクティブノイズコントロールによる騒音規制対策	造船業界では 2018 年 7 月以降の引き渡し船から新しい騒音規制が適用され問題視されています。これまで騒音対策は吸音材や遮音剤を利用したパッシブな手法が用いられており、これらに合わせてアクティブ手法を用いることにより、有効な規制対策が期待されています。また、自動車業界においても低燃費化に伴う軽量化による騒音が問題になっており、そこでもアクティブノイズコントロールが注目されています。地元企業との共同研究による地域貢献と自動車メーカーとの共同研究による社会貢献について紹介します。	システム工学専攻 サウンドデザイン研究室 教授 石光 俊介 講師 中山 仁史 助教 高橋 雄三

No.	テーマ・事業名	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
地域 04	サウンドの医用応用	ヒトの生体信号を解析することで身体や精神など様々な状態を明らかにすることができます。具体的には、脳波を用いてヒトの痛みを定量的表現することや、発声時の音声や骨伝導音を用いて舌癬や病気の罹患有無を判定することができます。本発表では、我々が取り組んでいる音情報を用いて身体や精神状態を明らかにする医用応用について紹介いたします。	システム工学専攻 サウンドデザイン研究室 教授 石光 俊介 講師 中山 仁史 助教 高橋 雄三
地域 05	“ワクワク感”をデザインする	現在、車内音は静けさだけではなく、音環境としての快適さが追求されるようになってきました。快適さの支配要因となるエンジン音をデザインし、ドライバがワクワク感じる車内音を追及しています。	システム工学専攻 サウンドデザイン研究室 教授 石光 俊介 講師 中山 仁史 助教 高橋 雄三
地域 06	サウンド技術の異分野展開	サウンド技術の異分野展開として、体内伝導音を用いた豚の呼吸器病診断技術を紹介します。ピエゾ素子を用いた体内伝導音の採取と信号通信システムの構築を行いました。そして、呼吸器病の罹患有無を条件とした豚の呼吸音と心音の音響解析を行い、罹患有無における音響的特徴の差異を確認しました。	システム工学専攻 サウンドデザイン研究室 教授 石光 俊介 講師 中山 仁史 助教 高橋 雄三 特任助教 飯島 聡志
地域 07	情報オリンピック「レギオ」講習会	情報オリンピック日本委員会では、情報オリンピックを目指す高校生の育成のため、全国の大学で地域密着型の学習支援講習会「レギオ」を開催しています。本学でも広島県、広島市近隣の高校生や中学生を対象にしたレギオ講習会を開催しています。	情報オリンピック「レギオ」講習会実施グループ 情報工学専攻 コンピュータデザイン研究室 教授 井上 智生 情報ネットワーク研究室 准教授 舟阪 淳一 知能工学専攻 計算知能研究室 講師 串田 淳一 情報工学専攻 コンピュータアーキテクチャ研究室 助教 窪田 昌史
地域 08	文部科学省平成29年度採択事業「enPiT-Pro」の紹介	enPiT-Pro は「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」という言葉を意味しています。この事業は社会人向けの学び直しプログラムであり、事業を通じて中四国・九州地域の社会人を対象に「AI・IoT」といった先端技術を習得した人材を増やし、地域産業を発展させることを目的とします。	情報科学研究科 enPiT-Pro グループ 教授 角田 良明 教授 永山 忍 准教授 市原 英行 特任助教 平見 信之
地域 09	市大生チャレンジ事業	学生が自主的に実施する社会貢献プロジェクトを支援するため、その活動に対し補助金を交付しています。昨年度の採択プロジェクトを紹介します。	全学部
地域 10	市民を対象とした公開講座	本学は、教育・研究の場としてだけでなく、身近な生涯学習機関として、各学部の特徴を生かし、幅広い層を対象とした公開講座を実施しています。	全学部

③ 教育研究紹介

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
教育研究 01	国際学部教員の 著書の紹介	国際学部教員による研究成果物のうち、図書、学部叢書、学部紀要を 展示し、教員の研究成果を紹介します。	国際学部教員
教育研究 02	草の根災害情報 伝搬システムの 研究開発 (SCOPE 受託 研究)	本研究開発では、地域住民が災害情報を草の根的に伝搬させること を可能とする、モバイルアドホックネットワーク (MANET) を用 いた草の根災害情報伝搬システムを開発しています。土砂災害の危 険のある地域に設置した固定型モニタリングシステムおよび携帯端 末を用いた MANET 通信をデモンストレーションします。	情報工学専攻 SCOPE 草の根災害情報伝搬システム 教授 角田 良明 教授 石田 賢治 教授 西 正博 准教授 大田 知行 准教授 河野 英太郎 講師 新 浩一 助教 井上 伸二
教育研究 03	ルービックキュー ブをそろえる のを手伝って くれるスマホア プリア	見かけによらず結構難しいルービックキューブ。手引き書を見てそ ろえるのさえ一苦労です。そこでこのスマホアプリ。キューブを操 作する様子を見せると「次の手」を教えてください。途中で迷っ ても大丈夫、まるでカーナビのようにゴールまで導いてくれます。ど こにでもあるスマホでもプログラミング次第でここまでできます！	情報工学専攻 コンピュータアーキテクチャ研究室 教授 弘中 哲夫 講師 川端 英之
教育研究 04	蛍光 X 線ホログ ラフィーを支え るコンピュータ 技術	この展示では、蛍光 X 線ホログラフィーという物質の構造解析手法 において、大量データを効率的に処理する技術を紹介します。スプ リング-8 などの放射光実験施設での効率的な実験データの収集、 実験データからの結晶構造解析処理の高速化、得られた原子像の 3 次元グラフィックス表示などを、デモも交えて紹介します。	情報工学専攻 コンピュータアーキテクチャ研究室 教授 弘中 哲夫 センサシステム研究室 准教授 八方 直久 コンピュータアーキテクチャ研究室 助教 窪田 昌史
教育研究 05	自然界に学ぶ無 線 LAN 制御の 高度化技術	本展示では、自然界で起きている現象を参考にした無線 LAN 通信 の高速化や高効率化を目指した研究の一部を紹介します。本技術 を用いると、災害時に無線 LAN が繋がりにくくなる状況を緩和した り、最も快適に通信できる基地局を自動的に選択できるようになる 等、無線 LAN を今まで以上に便利に利用することができます。	情報工学専攻 情報ネットワーク研究室 教授 石田 賢治 准教授 小畑 博靖 ネットワーク科学研究室 准教授 高野 知佐
教育研究 06	つながるを科学 する研究～ネッ トワーク科学研 究室の研究紹介 ～	ネットワーク科学研究室では仮想化基盤、セキュリティ、大規模ネ ットワーク構造分析、無線通信等の研究に取り組んでいます。本展 示では最新の研究テーマを紹介いたします。	情報工学専攻 ネットワーク科学研究室 教授 前田 香織 准教授 高野 知佐 助教 石川 直樹

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
教育研究 07	RTKによる屋外センチメートルオーダー測位	RTKはGPS電波を受信して、実時間でセンチメートルオーダーの屋外位置を計測する技術です。RTKでは、空間座標の明らかな「基準局」でのGPS電波観測成果を利用して、一般のGPS計測で生じる数メートル程度の不確かさを小さくします。広島市立大学の基準局は、誰でも、無料で、事前連絡なしに利用できます。	情報工学専攻 センサシステム研究室 教授 田中 公一 准教授 高橋 賢 准教授 八方 直久 講師 藤原 真
教育研究 08	IoT時代のデータ活用 ～時系列データ分析とその応用～	データ工学研究室では、センサデバイスから取得される時系列データを対象として、クラスタリング、クラス分類、異常検知や特徴抽出手法などの研究開発を行っています。本展示では、深層学習を用いた時系列データからの特徴抽出手法とそのIoTにおける利活用について紹介します。	知能工学専攻 データ工学研究室 准教授 黒木 進 准教授 田村 慶一 助教 森 康真
教育研究 09	インフォメカトロニクスシステム	メカトロニクス研究室で取り組んでいる、情報、機械、電気・電子工学を融合させたインフォメカトロニクスに関する最新の研究（ロボットビジョン、パワーアシスト、エネルギー変換システムなど）を紹介します。	システム工学専攻 メカトロニクス研究室 教授 李 仕剛 准教授 小崎 貴弘 助教 小作 敏晴 助教 厚海 慶太
教育研究 10	車両情報の一部が観測できない場合の自動運転システム	本研究室では、システム外乱を考慮した自動運転システムに対し、整備不良等が原因で、車両情報を取得するセンサになんらかの不具合が生じ車両情報の一部が観測できない場合を考え、観測できた車両情報のみを使って最適レギュレータと同様に外乱に対するロバスト性を有するような自動運転システムについて研究しています。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 教授 小林 康秀 准教授 小野 貴彦 助教 齊藤 充行 助教 脇田 航
教育研究 11	様々な雑音にロバストな最適出力フィードバック制御系の設計	実際のシステムには確定的にはとらえられない雑音が存在し、観測過程には種々の雑音が混入します。本研究室では、このような雑音の存在下で、システムの状態を観測するセンサの一部が故障した場合を想定し、使用可能なセンサにより観測できた観測値のみを直接フィードバックする最適制御系の設計法について研究しています。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 教授 小林 康秀 准教授 小野 貴彦 助教 齊藤 充行 助教 脇田 航
教育研究 12	モデル化誤差を考慮した車両モデルの提案	自動運転において、道路形状から求まる目標軌道に精度よく追従するためには、モデル化誤差の少ない車両モデルが必要となります。そこで本研究室では、モデル化誤差を前輪操舵角のズレで表現し、このズレをニューラルネットワークを用いて推定することで、目標軌道に精度よく追従できる車両モデルについて研究しています。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 教授 小林 康秀 准教授 小野 貴彦 助教 齊藤 充行 助教 脇田 航
教育研究 13	救急車運転訓練支援システムとその応用	救急車の運転技術の習得をサポートするシステムを紹介する。車両の加速度から、患者の血圧変動と横揺れに伴う身体圧迫を推定して、運転技能を評価する。この応用として、道路管理への応用を取り上げる。徳島県で行った走行データから路面状態の悪い場所を特定し、道路補修の根拠資料として活用した例を紹介する。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 准教授 小野 貴彦

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
教育研究 14	簡易没入型全方位VR歩行プラットフォーム	VR環境内の歩行手段として、従来手法である錯覚を利用する方法、進行方向に体を傾斜させる方法、その場で足踏みする方法のそれぞれの要素を取り入れることで、低コストかつ高没入に歩行感覚を呈示可能な手法を提案し、プロトタイプシステムの開発およびコンテンツ応用を進めています。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 助教 脇田 航
教育研究 15	球面体による簡易モーションプラットフォーム	球面体を可動ベース側に取り付けることで積載物の重心を下げ、回転中心を身体重心にすることにより、球面体を介して積載物の重量のほとんどを地面へと逃がし、揺動時に復元力が働くことで増大するモーメントを低減する手法を提案し、試作機の開発およびコンテンツ応用を進めています。	システム工学専攻 知的制御システム研究室 助教 脇田 航
教育研究 16	フィンガーモーションによるロボット動作指示インタフェース	遠くにある物体を、あたかも自分の手を伸ばして直接掴みとるような感覚で、ロボットグリッパに把持させることが可能なロボット動作指示方式を紹介します。ディスプレイやマウス等を介さず、直接物体を見て直観的に手と指を動かすだけなので、家庭内での介護支援ロボット等への応用が期待できます。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 講師 池田 徹志
教育研究 17	エアジェットによる3D物体の非接触位置姿勢制御	ワイヤで連結された複数球体のそれぞれに対して、角度と噴出量が調整可能なエアジェットを噴出することで、構造物全体を空中に浮上させつつその3次元位置と姿勢を制御する方式を提案します。任意形状物体の位置と姿勢を空中で自由に操作可能なので、エンタテインメントシステムや3Dスキャナー等への応用が期待ができます。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 講師 池田 徹志
教育研究 18	移動ロボットの顔向きが与える歩行者への影響の調査	ロボットが人と円滑にすれ違うためには、人を避けて通過しようとしている意図を気づかせる必要があります。そこで本研究では、すれ違い時の情報提示の一つとして、ロボットの顔の動きを用いる方法を提案します。そして、歩行者の行動軌跡への影響を調べ、提案手法の有効性を確認します。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 講師 池田 徹志
教育研究 19	複数の人が移動する環境でのプロジェクタロボットの移動制御	プロジェクタを用いる場合では、その場にいる全員が、提供されている情報を理解・共有できる必要があります。参加者の位置が変化する場合には、プロジェクタを移動し、全員に見える位置に情報を投影することが求められます。参加者の位置に合わせて投影場所を決めるプロジェクタロボットの移動制御について提案します。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 講師 池田 徹志
教育研究 20	自動運転時のシートの動きを用いた加速度の事前情報呈示	自動運転や運転補助機能の導入が進められていますが、自動運転時においてドライバは車両の操作を行わずに監視する必要があり、手動運転では無かった新たなストレスが生じます。本研究では、前走車への追従走行時に、異なる車間距離と加減速の組み合わせでドライバが感じるストレスを主観評価に基づいて評価しました。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 教授 岩城 敏 講師 池田 徹志

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時に在籍者を含む)
教育研究 21	サービスロボット向け実験用全方位移動台車の開発	オープンソースのロボット・アプリケーション開発ミドルウェア：ROS を用いたサービスロボット向け実験用全方位移動ロボットを開発しました。新規サービスの実装方法の検討や効果の確認の他、インテリジェントで多機能なセンサの実験用プラットフォームとしても利用できます。ロボットに搭載する要素技術を紹介します。	システム工学専攻 ロボティクス研究室 助教 高井 博之
教育研究 22	分子から個体までを対象に理論と実験の両面から医療に貢献する	当研究室では、計算と実験の両方のアプローチから、情報科学と生物学の学際・融合領域の教育・研究を行っています。タンパク質、酵素といった分子レベルから植物やヒトといった個体レベルの広い範囲の生物を対象に、生物の持つ様々な能力を利用し、生命現象の解明と人間生活への利用を目的とした研究開発を目指しています。	医用情報科学専攻 バイオ情報学研究室 教授 鷹野 優 准教授 中野 靖久 准教授 釘宮 章光 講師 香田 次郎 助教 齋藤 徹
教育研究 23	MEMS 技術と その医用応用	マイクロ・ナノメートルのサイズで機能する MEMS 技術とそれの医用応用に関する研究開発を紹介します。 (1) 肺内部での呼気吸気計測を可能とする生体情報極限計測技術の開発 (2) マイクロニードルを応用した次世代経皮吸収剤技術の開発 (3) MEMS 技術を用いたウェアラブル、フレキシブルセンサシステムの開発	医用情報科学専攻 医用ロボット研究室 教授 式田 光宏 助教 長谷川 義大
教育研究 24	SoundSports : 障害者と健常者が共に楽しめるスポーツ	スポーツを通し障害者と健常者の相互理解を深める事を目的に、アクセシブルデザイン手法を用いて新スポーツ“SoundSports”と専用のデバイスを開発しました。これは 2 名以上のプレーヤーが腕や脚にデバイスを装着して、デバイスから出る音に合わせてバレーボールのレシーブの動きをすることでラリーを楽しめます。	医用情報科学専攻 医用ロボット研究室 講師 谷口 和弘
教育研究 25	失語症者のための言語聴覚訓練システムの開発	タブレット上に失語症者用言語聴覚訓練システムを開発している。失語症とは、脳卒中他の原因により脳の言語領域を損傷し、言語機能が障害を受けた状態である。本システムは失語症者用の「問題解答トレーニング機能」とリハビリテーションを行う言語聴覚士用の「リハビリテーションプラン作成機能」から成る。	言語聴覚訓練システム開発グループ 知能工学専攻 機械学習研究室 准教授 内田 智之 システム工学専攻 ヒューマンシンインタフェース研究室 助教 川本 佳代
教育研究 26	テキスト解析による観光イメージの分析	平成 29 年度地域課題演習の大久野島・竹原チームの学生 14 人の期末レポートを使用して、竹原の観光地イメージの分析やレポートの内容に類似性のある作者のグルーピング等、テキスト解析の分析手順を紹介する。実務への応用のための解析手法が未確立の分野であり、事例研究の蓄積が必要である。	社会連携センター COC+ 特任准教授 吉岡 研一

No.	テーマ	概要	研究者 (事業実施当時在籍者を含む)
教育研究 27	地域貢献と人材育成のための観光関連データベースの構築と活用	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の中で、教育研究に関連する観光関連データベースを構築しています。一般的な観光情報のみならず、様々な自動抽出・分類手法により収集した観光に関連するブログや Twitter、GPS データからの観光行動履歴等を収集して登録活用している点に特徴があります。	社会連携センター COC+ 特任助教 植松 敏美
教育研究 28	広島平和研究所教員の著書紹介	広島平和研究所教員による研究成果物のうち、図書、叢書、紀要を展示し、教員の研究成果を紹介します。	広島平和研究所教員

④その他

社会連携センターの活動紹介

No.	テーマ	概要
1	社会連携センターの紹介	社会連携センターの役割・機能・組織について紹介します。
	COC+の活動紹介	<p>広島市立大学は、平成27年度に、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の実施校に選定され、地域が必要とする人材を育成するプロジェクトを進めています。本学と、広島地域の大学等8校が協働し、広島広域都市圏の市町に尾道市を加えた25の自治体や地元の企業等と連携し、関係機関の皆様の多大なご協力をいただきながら事業を進めています。</p> <p>この事業においては、学生がこの地域の素晴らしさやポテンシャルに気づき、この地域に暮らして自己実現が可能だと認識してもらえるように、観光振興や地域の活性化をテーマとしながら、①地域志向型の教育カリキュラムの整備・推進、を中心に、②観光関連データベースの構築・活用、③アートプロジェクト等の教育研究事業の実施、④インターンシップの強化、の4つの取組を柱として、事業を推進しています。</p> <p>特に大学教育の中心である教育プログラムについては、①広島を知る、②広島を感じる、③広島を問う、④広島に挑戦する、という4つのステップを段階的に経るものであり、①1・2年次に、全学共通教育を通して「地域志向科目」により地域の特性・課題を総合的視野から学び、②2・3年次から、学部専門教育を通して各自の専門性を磨き、その専門性をもって課題解決に取り組み、得られた知見・成果を4年次の卒業論文・研究・制作に繋げるものとしています。</p>

— MEMO —

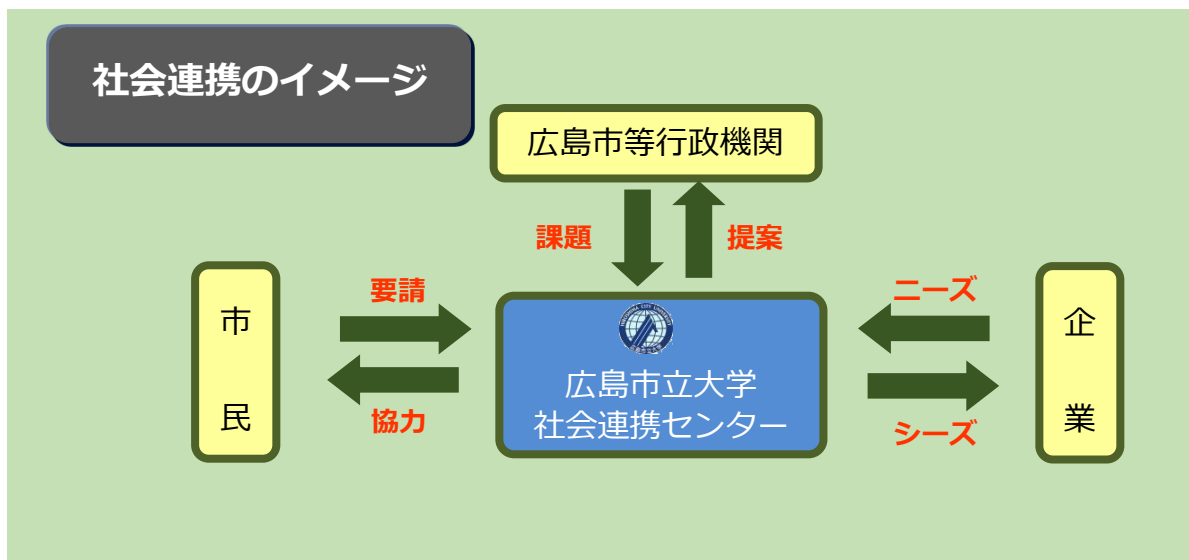
A large, empty rounded rectangular frame with a thin black border, intended for writing a memo. The frame is centered on the page and occupies most of the vertical space below the header.

広島市立大学社会連携センターについて

1 経緯

広島市立大学「社会連携センター」は、大学と社会をつなぎ、国際、情報科学、芸術、平和のそれぞれの分野で活躍する教員や学生の研究等の成果を、社会に還元するため、従来の「産学官連携推進室」の機能を発展的に拡充改組し、平成19年7月に設置されました。

2 イメージ



3 所管業務

区分	事業内容
産学連携の推進	産学連携推進施策の企画運営・学内調整、関係機関との連絡調整
地域連携の推進	地域連携推進施策の企画運営・学内調整、関係機関との連絡調整
知的財産管理	知的財産権の権利化及び管理（特許出願等）、知的財産権保護
外部資金獲得	奨学寄附金、助成金、補助金の受入・予算執行、共同研究・受託研究の推進・予算執行
公開講座	公開講座・サマースクールの企画・実施



公立大学法人 広島市立大学社会連携センター

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

電話：082-830-1764

FAX：082-830-1555

Email：office-shakai@m.hiroshima-cu.ac.jp